

令和4年 第9回 武豊町教育委員会 会議録

開催日 令和4年10月13日(木)

場 所 武豊町役場 全員協議会室

出席委員の氏名

教 育 長	加藤 雅也		
教育長職務代理者	永田 淑子	委 員	堤田 綾子
委 員	浅野俊太郎	委 員	小藤 省吾

出席職員の氏名

教 育 部 長	糸山 英巳	次長兼学校教育課長	榊原 全伸
生涯教育課長	伊藤誠一郎	スポーツ課長	田中 孝往
町民会館事務長	藤井 信介	歴史民俗資料館長	神谷 芳美
中央公民館長	内田 大介	生涯学習課課長補佐	西川 正洋
町民会館事務長補佐	栗田 宗広	スポーツ課課長補佐	石川 恭太
給食センター所長	青木 隆	学校教育課課長補佐	藤井 千絵
学校教育指導主事	岩田 圭司	学校教育指導主事	神谷 俊輔

：欠席者

1. 開会 午後13時30分

2. 開会宣言並びに第8回定例会 会議録の承認

(教育長) 出席委員4名を確認し、会議の成立及び第9回定例会の開会を宣言します。

(教育部長) 次に前回の会議録のご承認をお願いします。会議録につきましては事前にお渡ししておりますので、すでにご確認いただいていると思います。この会議録について、ご意見、ご質問等あればお願いします。

《意見なし》

(教育部長) 特にご意見等もないようですので、前回の会議録は承認とします。会議録への署名と押印は、この会議が終わりましたら、担当がお願いに行きますので、よろしくお願いします。

(教育部長) それでは教育長報告をお願いします。

3. 教育長報告

- 9月15日(木) ・文教厚生委員会
- ・町教育課程研究会
- ・定例教育委員会
- 9月16日(金) ・町安全衛生委員会
- 9月20日(火) ・定例校長教委管理職会議

(3) 令和5年 武豊町二十歳(はたち)のつどい
(中央公民館長) 資料4についての説明

(4) 令和4年度 吉町田湿地一般公開の結果
(歴史民俗資料館長) 資料5について説明

(5) 後援申請について
(学校教育課課長補佐) 資料6についての説明
(中央公民館長) //
(町民会館事務長補佐) //
(スポーツ課課長補佐) //

(教育委員) 後援申請が認められていない案件は、どのような理由からでしょうか。

(教育部長) 「宗教に関するものではないこと」「営利目的ではないこと」が後援申請を認める主な基準になります。申請を認めなかった案件につきましては、同基準に抵触していたことが理由として挙げられます。

(6) 当面する行事予定について
(指導主事) 資料7について説明(10月～1月)

(教育委員) 12月に実施予定の「武豊町SA・支援員等研修会」は毎年開催しているのでしょうか。

(教育部長) コロナ禍であった令和2年度は実施していませんが、昨年度を含め、毎年実施しています。

(教育委員) SAや支援員の力量向上につながるよい取組と考えます。今後も続けていただければと思います。

6. その他

(1) 町民会館より
(町民会館事務長補佐)
・ ゆめプラ通信 等

(2) スポーツ課より
(スポーツ課課長補佐)
・ 第24回ゆめたろうスマイルマラソンについて
・ たけとよスポーツ Day について
令和元年度に第1回を開催しましたこのイベントは、別日に実施していた「たけと

よチャレンジ大会」と「たけとよウォーカー」を同日開催するイベントとして、今回、第2回目を開催いたしました。

総合体育館内イベントとして、様々な種目に挑戦する「チャレンジ大会」に572人、館外イベントとして、ウォーキングイベント「たけとよウォーカー」に772人、合計1,344人の方にご参加いただきました。

また、武豊中央公園でもスポーツ推進委員さん方によるニュースポーツ「モルック」と「スナッグゴルフ」の体験会や、キッチンカーの出店などのイベントで、多くの方に参加をしていただきました。

(3) 生涯学習課より

(中央公民館長)

- ・ 図書館フェスタ(読書感想文、感想画コンクール等)について

(教育部長) それでは、教育委員さんからお気づきの点があればお願いします。

(教育委員)

国連の障害者権利委員会から日本政府に対して、障害者を分離した特別支援教育の中止を求める勧告がありました。「障害がある子どもと、障害がない子どもが同じ場で学ぶ」というインクルーシブ教育の理念がその背景にはあるかと思えます。この理念が価値あることを踏まえた上で、大切なのは、「その子の将来の自立につながるためには、どの場所での学びが適切か」を考えること言えます。

11月には、「武豊町教育支援委員会」が開かれます。園児・児童・生徒のよりよい成長のために、様々な専門家の見地を踏まえて議論をしていただければと思います。関係諸機関が連携し、一人一人を大切にした教育の展開を今後も望みます。

(教育委員)

インクルーシブ教育の観点から、国連より通常学級と特別支援学級を分離することをやめるようにという勧告がありました。インクルーシブ教育の理念は価値あるものです。そして、その理念を実現させるには、教職員・支援員の人的配置や環境面を十分に整える必要があると言えるでしょう。しかし、現実には教員不足等の問題があり、実現に向けた課題があることは否めません。

大切なことは、その子の成長を見据えたときに、何がいちばんよい道かを考えることでしょう。11月に開かれる「武豊町教育支援委員会」では、専門家の意見を踏まえながら一人一人にとって適切な就学の場を議論していただければと思います。

また、先日、知り合いの園関係者から、小学校の先生が保育園に研修に来たと聞きました。その先生は、保育士等の園児への接し方を見て、とても勉強になったと言っていたそうです。町内各園・小学校・中学校の教職員が交流し、校種や発達段階の違いによる支援指導の在り方等に触れることは、多様な子どもへの教育的ニーズを果たすことにつながると考えます。このような取組を今後も実施していただければと思います。

(教育委員)

歯科検診をしているときに子どもの口の中を観察すると、その子の家庭環境を推測することができます。服装はきれいですが口内が荒れている子など、気になる子どもがいるときがあります。そのような場合は、校長先生や養護教諭の先生と相談をし、その子に対する支援を一緒に考えたことがあります。

保護者による家庭での教育に加えて、学校という場で、教職員をはじめ多くの関係者が子どもの健全な成長に向けて力を合わせることは、大切なことと言えるでしょう。

本日の会の中で、各学校が関係諸機関と連携をして子どもに支援している様子を聞き、安心しました。今後も、子ども一人一人を大切にした教育を展開していただければと思います。

(教育部長) ありがとうございます。以上をもちまして定例教育委員会を閉じます。

(一同) ありがとうございました。

令和4年 月 日
署名

.....
.....
.....
.....
.....

作成者.....岩田 圭司